

2025

SUPER FORMULA
RACE REPORT

Rd.5

5.17 [sat] - 18 [sun]

[place] オートポリス (大分県日田市)

[weather] sat 雨 / sun 曇り

[spectators] 13,800人 (sat 5,000人 / sun 8,800人)

S
U
P
E
R
F
O
R
M
U
L
A
T
I
O
N

Rd.1-2	SUZUKA CIRCUIT	>>>>>>	MAR 07 - 09
Rd.3-4	MOBILITY RESORT MOTEGI	>>>	APR 18 - 20
Rd.5	AUTOPOLIS	>>>>>>	MAY 17 - 18
Rd.6-7	FUJI SPEEDWAY	>>>>>>	JUL 18 - 20
Rd.8	Sportsland SUGO	>>>>>>	AUG 09 - 10
Rd.9-10	FUJI SPEEDWAY	>>>>>>	OCT 10 - 12
Rd.11-12	SUZUKA CIRCUIT	>>>>>>	NOV 21 - 23

KDDI

TGR-DC
TGR Driver Challenge Program



天候不良により変則日程で開催。
小高一斗は入賞圏内まであと一歩の12位。
平良響も戦略で順位アップし16位を獲得。



2025年全日本スーパーフォーミュラ選手権 Round5「九州大会 | オートポリス」が5月17日(土)・18日(日)にオートポリスで行われた。予選日が天候不良により、予定されていた走行セッションが全てキャンセルとなり、1日で予選と決勝を行うスケジュールに変更された。KDDI TGMGP TGR-DCは、#28 小高一斗が、一時はポイント圏内の10番手を走行する活躍をみせ、最終的に12位でフィニッシュ。平良響もピット戦略を駆使して順位を上げ、16位でレースを終えた。

KDDI TGMGP
TGR-DC

KAZUTO KOTAKA
Driver 小高 一斗

28

Rd.5

予選 15位
決勝 12位

Rd.3 予選 P15 / 1'28.196
※通常のノックアウト形式から、40分間の計時予選へ変更。

決勝 P12 / 1'31.548

KDDI TGMGP
TGR-DC

HIBIKI TAIRA
Driver 平良 韶

29

Rd.5

予選 20位
決勝 16位

Rd.3 予選 P20 / 1'28.419
※通常のノックアウト形式から、40分間の計時予選へ変更。

決勝 P16 / 1'32.146

Rd.5

予選 天候:曇り/気温:18°C/路面温度:20°C 決勝 天候:曇り/気温:17°C/路面温度:20°C

QUALIFYING

ここまで1大会2レース開催のスケジュールが組まれていたが、今大会は土曜日に公式予選、日曜日に決勝レースを行うフォーマットが採用された。しかし、17日(土)は朝からサーキットが強い雨と濃い霧に覆われる状況となり、この日の走行セッションは全てキャンセル。予選は18日(日)午前に順延され、ノックアウト方式ではなく、40分間の計時予選となり、記録されたベストタイム順でグリッドが決定された。

予選でのスピードがライバルと比べて劣勢になっている課題を克服するべく、今回はマシンのセッティングを大幅に見直してきたKDDI TGMGP TGR-DC。本来ならフリー走行で変更点の確認をしたかったところだが、それが叶わず、ぶっつけ本番で予選アタックに臨んだ。2台とも上位を目指したが、他車のコースオフにより最終アタックでのタイム更新が叶わず、小高は15位、平良は20位でセッション終了。新しいセッティングに微調整を加えて、決勝レースでの挽回に挑む。



RACE

41周で争われた決勝レース。15番グリッドの小高は、スタートでの中団グループの混乱をうまく利用して3つ順位を上げて周回を重ねていく。ライバルが早めにピットストップを済ませていくなか、小高は17周目にタイヤ交換義務を消化し、後半戦に臨んだ。19周目にコースオフ車両が発生したことでセーフティカーが導入され、各車の間隔がリセット。レース再開後は混戦のなかで順位を上げて一時10番手に浮上した。このままポイント獲得に期待がかかるが、レース終盤にライバルの先行を許し、12位でチェックカーフラグを受けた。

20番グリッドの平良もスタートをうまく決めて、前半スティントから安定したペースを刻んでいく。後半までピットストップをしない作戦で走行していたが、コースオフ車両が発生したタイミングでピットインに成功し、14番手にジャンプアップ。レース再開後にライバルを追い抜いてポイント圏内進出を目指したが、実際には思うようにペースが上がらず、最終的には2つポジションを落として16位でフィニッシュした。



28



ポイントが獲れるか獲れないか
というレースができたので、
これを次に繋げたい。

ドライバー 小高 一斗

前回のもてぎ大会からチームのみんなと色々話
し合って、今回、方向性を大きく変更し、特に
ブレーキの安定感やダウンフォースの増加が期
待できそうなセットアップを持ち込みました。
いざ予選で走ってみるとあまり機能していなくて
苦しい結果になりましたが、決勝前のウォーム
アップで変更した箇所に対する感触は良く、
良い流れでレースに臨めました。ピットのタイ
ミングがもう少しうまくいけばポイントに手が
届いたような手応えを感じました。

29



ピットのタイミングは完璧でしたが、
その後のペースがありませんでした。

ドライバー 平良 韶

このクルマでオートポリスを走ることに慣れてい
ない部分があったので、予選の最初は新品タイヤ
を履かない作戦を取りました。他のドライバーが
新品タイヤを3セット使っていたので、そのやり方
でも良かったのかと思いましたけど、レースのこ
とを考えれば、悪くない選択だったと思いま
す。レースに関してはピットインのタイミングが
これ以上ないくらい完璧でした。そこから入賞圏
内に行きたかったのですが、全くペースがなくて、
完敗という展開になりました。

監督
片岡 龍也

鈴鹿大会・もてぎ大会を経て、クルマのセッティングに
関して大きく方向性を
変更しました。ところが天候不良でフリー走行で試す
ことができず、ぶっつけ
本番で臨むことになり、細かいところをアジャストする間もなく予選が終わり
ました。苦しい展開になりましたが、決勝レース前のウォームアップである程度
手応えが掴めっていましたし、2台ともスタートをうまく決めてくれました。
ペース的にはトップに及ばないにしても、それ以降の集団と同じくらいで走
っていました。あとは予選順位が上がってくれば、次戦以降が楽しみです。

